



学校教育目標の達成に向けて

＜学校教育目標＞

学ぶ人・思いやる人・鍛える人

＜目指す生徒像＞

- (1) 意欲的で粘り強く、向上心旺盛な生徒
- (2) 明るくたくましく、心豊かな生徒
- (3) 力を合わせ、創意工夫する生徒

＜教育活動の具体＞

学校教育目標の達成に向けて、知・徳・体を一体で育む教育活動の具体として、①安全指導の取組、②学力向上の取組、③体力向上の取組、④豊かな心を育む取組、⑤小中連携(学びをつなぐ)の取組を行います。(以下参照)

＜目標達成の鍵は「Be positive」(今年度の重点)＞

例え悪条件でもpositively、最善を尽くすことで得られる経験があります。その一つ一つが自信になり、人をたくましくしてくれます。そんな経験を一つでも多くプレゼントしたいと思っています。

「雨は誰にでも降るんだよ。ただ、その時に、かさを持っていない人もいるってこと」(にしむらえいじ)

子どもたちを待ち受ける数々の試練、それを「雨」に例えたら、濡れるに任せるのではなく、「かさ」を持って歩ける子どもたちになってほしい。

1. 安全指導の取組



(1) 登下校指導 <4月>

年度始め、本校職員で校舎西側・北側・南東側の道路の交差点や横断箇所では交通指導を行いました。(町内会の方には毎日見守っていただいています)



(2) 自転車点検 <4月>

全国的に事故の多い自転車の使用についての指導と、点検を実施しました。



(3) 避難訓練 <5月・9月・11月・2月>

様々な状況下で、避難経路や「危険を予測し、回避する」行動を確認しています。



(4) 防災教育 <10月>

学年毎のテーマで、地域調べ(1年)、避難所開設(2年)、避難所運営(3年)を学習し、地域の中での役割について考えを深めます。



(5) 薬物乱用防止教室 <3月>

講師を招き、3年生を対象に薬物の恐ろしさや恐るべき誘惑から自身を守る学習をします。

2. 学力向上の取組

(1) 指導工夫で学びの充実へ

① 読書活動・対話活動



＜緑園タイム＞

読むことの習慣化、落ち着いた日常を定着していく「朝読書」に加え、自分の考えをまとめ、伝える力を向上させる「対話活動」を朝の会の前に行います。

② ICT活用



＜タブレットの活用＞

大型モニターや、1人1台端末の活用により、個々の習熟度や興味に応じた学習を充実させるなど、効果的な指導工夫を進めます。

③ 放課後学習会



＜緑園自習室①＞

教員や学習指導員に質問しながら、宿題やeライブラリー等を活用した学習会を定期的に実施し、自分の課題に合わせた学習を行います。

④ 長期休業学習会



＜緑園自習室②＞

夏冬休みに学習会を実施し、宿題や課題、eライブラリー等に取り組みます。

＜実験教室＞

普段の授業ではなかなかできない発展的な実験を行い、より広く、より深い学びとなるよう進めます。



<令和の日本型学校教育> 新型コロナウイルス感染症の感染拡大をはじめとする社会の急激な変化の中で、学習機会と学力、全人的な発達・成長等を保障する学校教育の役割が再認識されております。

学校においては、**子どもたちの知・徳・体を一体で育む「日本型学校教育」**のよさを更に発展させ、子どもたちに未来社会を切り拓く資質・能力を確実に育むことが求められており、本校では「**個別最適な学び**」（個々の習熟度や興味に応じた学習）と、「**協働的な学び**」（多様な他者とよりよい考えを生む学習）を充実させる取組を進めております。

その様子は、随時、学校だよりやホームページで紹介していますが、年間の取組の概要を本紙でご紹介いたします。

(2)よりよい授業を目指して

本校では、研究テーマ「**思考力・判断力・表現力を育む指導方法の工夫**」～対話力を育むための活動の充実～

を目指し、計画的に校内研修（教員や関係者による授業参観や協議）を行います。各種テスト結果による個々の達成状況や、職員の自己評価、外



部からの助言、生徒アンケートの結果を活用しながら、指導と評価の一体化を目指し、より良い授業づくりを進めていきます。

(3)学習習慣の定着を目指して

① 家庭学習の推進

日常的に家庭学習を直向きに取り組み、積み上げていくために、宿題や課題以外にeライブラリーや、自学ノートなどを活用しています。

自学ノートについては、生徒が自らスケジュールや学習内容を調整して、取組を積み上げることで、達成感を得て、粘り強く取り組む意識を育みます。

② 自らの取組への振り返り

テスト計画の振り返りや教育相談で、自分を見つめる機会となるよう以下の視点でお話しています。



・現時点での自分を知り、どれだけ自分が成長したか、これからすべきことは何かを探る機会としてほしい。

話すことで自分の考えが整理され、自分が決めることで行動に覚悟が生まれます。主体的な考えと行動を支援して、背中を押していきます。

(4)全国学力・学習状況調査より

全国的な生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の検証・改善や、学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で、4月16日に3年生を対象として国語・数学・英語で実施されました。

今年度(令和5年度)の結果は後日お伝えします。

※ 参考に、昨年度(令和4年度)の結果は以下の通りです。

<国 語> (令和4年度より)

- 平均正答率が全道・全国を上回っている。
- 助動詞の働きや使い方において正答率が高い。
- 表現の技法において正答率が高い。
- △自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題が見られた。

<数 学> (令和4年度より)

- 平均正答率が全道を上回り、全国を下回っている。
- 箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることに正答率が高い。
- 三角形の合同条件の理解において正答率が高い。
- △式の意味を読み取ったり、事柄が成り立つ理由を説明したりすることに課題が見られた。

<理 科> (令和4年度より)

- 平均正答率が全道と同程度で、全国を下回っている。
- 計画した実験で、変える条件と変えない条件を適切に設定することに正答率が高い。
- 化学変化に関する知識及び技能を活用して、分子のモデルから化学反応式を表すことの正答率が高い。
- △予想と異なる実験結果が出た場合、それが意味することなどを考え、実験操作等の不備を指摘することに課題が見られた。

【対 策】

- ・令和4年度の結果を受けて、今年度(令和5年度)、主に以下の取組を実施しています。
- ①授業の中で、考えの「理由」を話したり、書いたりするアウトプットの時間を設けます。(知識をつなげる、自分の考えをまとめる)
- ②週に1回、朝の時間をつかって「緑園タイム」(お題について自分の考えをもち、その理由をはっきりさせ、文章にまとめる学習)を行います。
- ③ チャレンジテストや学力テスト・定期テスト・標準学力検査等を活用しながら、短期間で検証・改善します。
- ※ 令和5年度の結果や分析、対策については、後日改めて学校だより等で紹介します。

3. 体力向上の取組

(1) 全国体力・運動能力・運動習慣等調査より

全国的な生徒の体力や運動能力・運動習慣等を把握・分析し、学校における生徒への教育指導の充実や改善等に役立てる目的で、毎年2年生を対象に実施しています。
(令和4年度結果は以下の通りです)

<令和4年度、2学年>

| 種目 | 体力要素 | 男子 | 女子 |
|----------|-----------|----|----|
| (身長) | (体格) | ○ | ○ |
| (体重) | (体格) | ○ | — |
| 握力(筋力) | 筋力 | △ | △ |
| 上体起こし | 筋パワー・筋持久力 | △ | △ |
| 長座体前屈 | 柔軟性 | — | △ |
| 反復横とび | 敏捷性 | ○ | ○ |
| 20mシャトル | 全身持久力 | ○ | ○ |
| 50m走 | 疾走能力 | △ | — |
| 立ち幅とび | 筋パワー・跳躍能力 | — | ○ |
| ハンドボール投げ | 巧緻性・投球能力 | ○ | ○ |

(全国比…○：高い、—：同程度、△：低い)

- 男女共に、体格・敏捷性・全身持久力・投球能力が高い。
- △男女共に、筋力に課題が見られた。
- 男女共に、運動が好き・体育の授業に進んで参加している生徒の割合が全国より高く、毎日の運動時間が全国より多い。(生徒質問紙より)

【対策】 今年度、主に以下の取組を実施しています。

① 体育授業の工夫

体育の授業では、効率的な体の使い方の指導や、基礎的な筋力を向上させる運動を取り入れ、運動量を確保した授業展開を行っています。

② 「対抗戦」の実施

球技大会やアイスホッケー大会、体育祭等の体育的行事を実施しています。生徒は様々な種目の特性や楽しさを味わい、対抗戦を通して仲間意識を高めています。

② 感染対策と教育活動

感染状況や国・道の指針により、刻々と対応が変化していますが、その都度、市教委の指導・助言のもと教育活動を進めていきます。少しでも子どもたちの心が満たされる取り組みを工夫して実施していきます。

③ 望ましい生活習慣の定着

栄養教諭による食育指導、担任・学年団による生活指導、顧問による部活動指導等を通じて、栄養・休養・運動をしっかりとる生活習慣を意識できるように、保護者と連携して進めます。



4. 豊かな心を育む取組

(1) 協働的な学びの充実

① 心のつながりを生む取組

• 体育祭「仲間とつくる感動」<5/27予定>

「頑張ることは格好いい」「心を一つに揃えることは素敵なこと」を体現し、仲間を励ます、お互いの健闘を讃え合う活動として企画しています。



• 文化祭「心一つに歌声響く」<10/1予定>

「心を一つに揃えることは素敵なこと」を体現し、表現力や情操を高める活動として企画しています。



② 思いを伝え合う取組

• 意見発表「私の思い、言葉にのせて」<8月>

夏休みに全校生徒で取り組み、疑問や葛藤に対して、自分や周囲はどうしたらよいかを発表します。自分たちのあり方や生き方を中学生の視点で発表し、思いを言葉で伝え合います。



③ 「地域のためにできること」を考える取組

• 1年防災学習「地域探索」<9月>

～危険を予測し、対応を考える～
河川の近くや商店街の看板など、災害時にどんな危険があるかを予測し、対応を考える学習をします。



• 2年防災学習「避難所設営」<12月>

～相手意識を高める～
段ボールベッドやテントの設営、避難者が使いやすいレイアウトなどを考える学習をします。



• 3年防災学習「避難所運営」<11月>

～対話と合意形成の積み上げ～
Do Hugを活用して、発熱者、盲導犬、お年寄り、幼い子どもなど、状況に応じた対応をどのようにするのか、対話と合意形成により最善を尽くすことを学習します。



④ 地域の教育資源を活用した学び

・1年進路学習「職業人に聞く」〈6月〉

～働く意義、職業観を学ぶ①～
各企業から講師を招き、仕事のやりがいや、社会人になるために必要なことなどの話を交え、働く意義や職業観を学びます。



・2年進路学習「職場体験」〈9月〉

～働く意義、職業観を学ぶ②～
近隣の事業所に協力をいただき、2日間の職場体験を通じて、働く意義や職業観を学ぶことができます。



・3年進路学習「高校の先生に学ぶ」〈7月〉

～具体的な進路実現へ～
近隣の高校に協力をいただき、3年生を対象に出前授業を予定しています。高校の授業の雰囲気や体験するとともに、質問等により自らの進路選択に必要な情報を集めます。



・おびひろ市民学「SDGs」他

～持続可能な社会のために～



＜1年生＞ 8月に「地域の大人にできること」をテーマに、「手話教室」を行います。9月は「SDGs 持続可能な社会のためにできること」をテーマに、地域や社会の未来に対して、責任ある行動とは何かを考える学習を行います。JICAでの「国際協力」の学習、「はぐくむ」での講話や散策による「帯広の森づくり」の学習を行います。その後、市青年会議所と市環境都市推進課から講師を招いて、自分たちに出来るアイデアの交流やまとめを行います。



＜2年生＞ 6月、「地域の大人にできること」をテーマに、「認知症サポーター養成講座」を行います。地域包括支援センター職員が講師を務め、人を大切にすることや支え合うために、自分ができることは何かを考える学習を行います。



＜3年生＞ 7月、「帯広市の台所事情」と題して、市財政課職員を講師に招き、「帯広市のまちづくり」と「財政」についての学習を行います。

・インターンシップ・教育実習の受入 〈9月〉



本校卒業生を含む高校生・大学生が実習に来ます。例年、中学生は「年の近い先生」から、進路や将来像についての刺激を受けています。

(2) 道徳授業の充実

① 「考え、議論する道徳」〈年間〉

アンケートや面談等による生徒の実態を調査した後、「考え、議論する道徳」の授業を全教員で担当を決めて実践しています。

(3) 将来の自分の姿を考えさせる取組

「職業人に聞く」や「職場体験」、「高校の先生に学ぶ」、教育相談や進路説明会、三者面談を通じて進路について考えを深める機会を設定しています。また、生徒は部活動や地域活動等での出会いから、将来の生き方の刺激を受けています。



(4) 集団と自分の関わりを考えさせる取組

① 各種アンケートの結果の活用 〈4月、6月、11月、2月〉

全国学力・学習状況調査、いじめ等調査、生活学習実態調査（本校独自）や教育相談等を活用し、生徒の実態把握に努めるとともに、今後について考えさせる機会を設定します。

(R4年度結果)

| | | |
|----------------------|---|------------|
| ・毎日、同じくらいの時刻に寝ている | … | 44% |
| ・家の約束を守ってスマホ等を使用している | … | 33% |
| ・「いやな思い」があった | … | 3% |
| ・困っても誰にも相談しない | … | 15% |
| ・自分には良いところがある | … | 75% |

・「いやな思い」を積極的に認知し、面談を通じて、人との関わり方や距離感、今後すべきことについて考えさせる機会を設定しています。

・困ったときの解決法を考えさせています。回避することは緊急時には有効です。でも、本当に解決するには相談することが大切だと伝えています。

・協働的な学習を通して、一人一人の「存在そのものが尊い」こと、違いや良さを認め合い、自己肯定感や自己有用感を高め合うことで学校生活を楽しく豊かなものにする意識を促しています。

②Q-U調査(学校適応感の調査) <6月、10月>

学級全体と生徒個人の適応感を調べ、SOSのサインや、集団の中での関係性について確認し、指導・支援の参考にしています。



③教育相談 <6月、11月>

学習や生活、人間関係、部活や進路など、生徒が相談したいことを記載した教育相談シートを基に実施します。

・人との関わり方や距離感是人と関わって学ぶもの。人との関わり方や将来の姿など、いまの自分と向き合い、これからすべきことは何か、将来どんな生き方をしたいか、考えを深める機会としてほしい。

5. 小中連携の取組

～緑園中・関西小・森の里小の取組～

子どもたちにとって、義務教育9年間は自立のための大切な学びの時間です。緑園中学校区の職員が一同に会し、学習・生活等の視点で話し合います。小・中のなめらかな接続や、9年間を見据えた教育について取組を進めていきます。その取組の一部を紹介します。

(1)中学校教員による出前授業「体育・英語」

1学期に小中合同体育を予定しており、中学生が見本となって、小学生のサポートをします。中学生は、自分の役割を自覚して一生懸命サポート



生はサポートしてくれたことを感謝し、それに応えようと努力することで、自分もあんな先輩のようになりたいというあこがれの気持ちを持つことができます。

その他に英語の出前授業や、3学期には「入学説明会」を行う予定です。

(2)職場体験学習による児童生徒の交流

本校2年生が各小学校で実習を予定しています。児童生徒の交流を通して、中学生は先輩(先生)としての振る舞い、児童は将来の自分の姿を考える機会となります。



(3)いじめ非行防止サミットによる児童生徒の交流

児童会・生徒会役員による各校のいじめ非行防止の取組を交流します。ポスターやスローガン作成などを行い、小中合同で呼びかけ等を行います。



(4)教職員の連携会議・研修会

小中連携会議をはじめ、特別支援担当による打合せや説明会・見学会の実施、各校の実践発表会への参加、生活や学習の情報共有と対応など、随時行っていきます。



また、緑園中エリアファミリー(緑園中学校・関西小学校・森の里小学校・帯広幼稚園・帯西幼稚園・つばさ保育所・みのり保育園・関西児童センター・森の里児童センター)を活用し、危険マップの作成、エリアの目指す子ども像の共有・連携を進めていきます。

緑園中エリアファミリー

緑園中学校・関西小学校・森の里小学校
帯広幼稚園・帯西幼稚園・つばさ保育所・みのり保育園
関西児童センター・森の里児童センター

【目指すエリアファミリー像】
小中連携を軸とし、幼・保・学童と「目指す子ども像」を共有するエリア
・9年間一貫した教育課程、1日1キックアップ、ホ1プロジェクトの推進

学校と家庭が共通理解を深め、課題解決に向けて協力するエリア
・家庭学習習慣の定着・生徒指導の課題(いじめ、不登校、SNS、生活習慣)

地域の教育力を活かし、協働しながら、地域や社会の負担に応えるエリア
・情報発信と交流・社会に開かれたエリア・地域連携プロジェクトの活用・CSの導入

【目指す子ども像】

| | | |
|--|--|---|
| <p>知</p> <p>学級の進捗をもち、主体的に発問・発答できる子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級のまわりでの発言 ・協働的なグループ作り ・家庭学習スタイルの確立 | <p>徳</p> <p>基本的な生活習慣が身に付き、目標を達成できる子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、泣き、正しい言葉遣い、整理整頓、掃除の習慣化 ・時間を守る意識の醸成 | <p>体</p> <p>生活リズムを守り、自ら目標を達成できる子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸、早寝、朝起き、朝ごはんの定着 ・社会生活の知識、理解 ・健康の維持管理 |
| <p>相手課題をもち、積極的に自分の考えや意見を発信できる子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話す、聞く、力の養成 ・表現力、発信力の養成 ・コミュニケーション能力の養成 | <p>道徳的に判断し、正しく、思いやりのある行動ができる子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな感情の育成 ・学校のまわりの遵守 ・インターネットやSNS等の利用の仕方 | <p>積極的に体を動かし、スポーツに楽しむことができる子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動習慣の確立 ・体育の授業出席 |





令和5年度 帯広市立緑園中学校 グランドデザイン

学校教育目標

学ぶ人 (生涯学び続ける人)
 思いやる人 (豊かな人間性を持つ人)
 鍛える人 (心身の健康を図る人)

目指す学校像

～すべての人にとって
 学校は楽しいところ～
 ・生き生きと活動する学校
 ・信頼され、連携する学校
 ・切磋琢磨する学校

目指す教師像

～「チーム緑園」で
 教師力の向上～
 ・教職に対する熱い情熱
 ・教育の専門家として確かな力量
 ・総合的な人間力

目指す生徒像

～夢と自信をもって
 生き生きと～
 ・向上心旺盛な生徒
 ・たくましく心豊かな生徒
 ・創意工夫して実践する生徒

今年度の重点目標

『自己肯定感をもち向上できる生徒の育成』
Be positive

授業力の向上

- 緑園スタイルの授業の進化
 - ・課題とまとめ、振り返り
 - ・授業の流れが分かる板書
 - ・話し合い活動の充実
- 対話トレーニングを活用した授業
- 理論研究と全員の授業公開
- 自己評価・相互評価による授業検証
- 学習指導要領をふまえた研修
- 検証改善サイクルの活用
- 各種学力調査の分析と対応
- エリア公開研究会に向けた取組

学ぶ意欲の向上

- 自己肯定感をもち主体的に学習する態度の醸成
 - ・自主的なChromeBookの活用
 - ・学習環境の充実
 - ・数学教室と英語教室の活用
 - ・自学ノート等の活用(学習履歴の見取り、家庭学習の定着)
- 学習習慣の確立
- 放課後学習等、学習する場の充実
- 学習規律の徹底(小中連携)
- 緑園タイムの活用(考えをまとめ、伝える場を設定)

豊かな心・自己や集団を高める意識の向上

- 生徒指導の機能を生かした教育活動の推進
 - ・自己決定の場
 - ・自己存在感を得られる集団
 - ・共感的な人間関係
 - ・安全安心な風土
- 協働的な学びの充実
- 全教員による考え・議論する道徳の実践
- 寄り添う指導と統一した指導
- 受容的態度と共感的理解に基づく生徒理解
- 生徒指導委員会の定期的な開催

評価分析

(教職員・生徒・保護者・学校運営協議会)

- 各種学力調査結果より取組の成果と課題を分析、短いスパンで対応する。
- 各種アンケートにより、自己肯定感「自分には良いところがある」や学習の主体性「家で計画的に学習している」、困り感「考えをまとめ、伝えることが難しい」など、生徒の実態を把握し、取組を見直して対応する。
- 学校評価等の結果より取組を多面的に評価し、改善を重ねる。

